

## 成果報告書

担当者：山本信次

講座名：「かんじきをはいて冬の森を歩こう」

実施日：2019.2.17

受講者数： 13

定員数：20

受講料：無料

### 目的

大学の教育研究施設としての演習林の利用を学内にとどめることなく、社会に広く開放すること、また近年関心の高まる森林のもたらす生態系サービスの詳細について市民に普及し、その制御技術としての森林科学が大学でどのように研究されているかを周知することを目的とする。

### 活動実績

活動における指導は、教員の山本信次、技術職員の濱道寿幸、麻生臣太郎、菅原大輔、斎藤誠の五名で行った。

今回の参加者は成人個人単位と子供連れご家族での申し込みで大別できたため、年齢の違いによる理解力の相違などに配慮してその二つでグルーピングを行い、複数スタッフが付き添って森林内をかんじき装着の上でガイドウォークした。

成人グループにおいては、一般的な森林生態、樹木の判別、森林管理技術の開設などを中心に行った。

子供連れ家族グループについては、野生動物の足跡や食べ痕、糞などの痕跡から森の生き物を調べるアニマルトラッキングや植物の解説、林業に関する簡単な解説を行った。

グルーピングが功を奏し、参加者の興味や関心に沿った形での運営とできたことで参加者からは、「面白かった」、「来年も参加したい」などの感想をいただき好評を博した。

### 今後の課題

暖冬・小雪の影響か例年に比べ参加者が少なくなってしまった。

これまでの経験上も、かんじきを十分に利用できる積雪量が参加者の多寡に影響していることから、温暖化の進む中で開催時期を徐々に前倒しするなどの対応をとってきているものの、本務との関係上、これ以上の開催時期の前倒しは難しい。

雪が少なくとも、今回のように参加者の満足度を上げる運営そのものは可能であるので、雪の多寡にかかわらず楽しめる企画であることを周知していきたい。